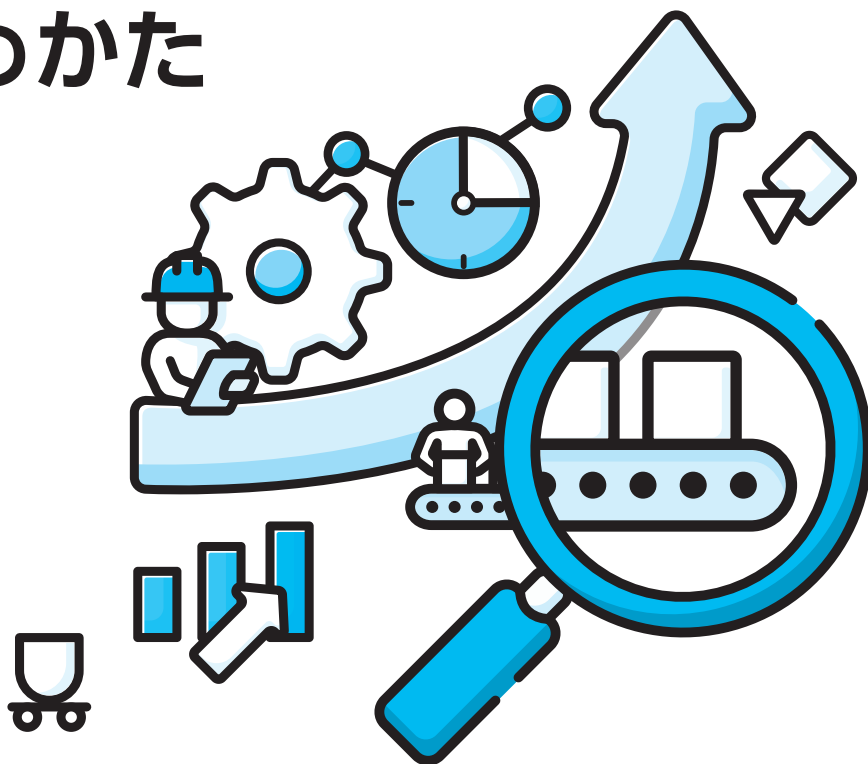


成果のあがる

通信  
教育講座

# 改善と 提案の すすめかた



JTEX

職業訓練  
法人 日本技能教育開発センター

## ◆◆ 目 次 ◆◆

<b>第 1 章 改善とは</b>	7
<b>1-1 企業経営と生産現場について考えてみよう</b>	8
1-1-1 企業の存続と生産活動について考える	8
1-1-2 生産現場に求められていること	12
1-1-3 生産現場の強さとは	14
column1-1 能率と効率	14
<b>1-2 改善とは</b>	16
1-2-1 管理とは	16
1-2-2 改善とは	19
column1-2 改良と改善	20
1-2-3 方針管理と日常管理	20
1-2-4 小改善の大切さ	22
1-2-5 私たちが取り組むべき改善とは	23
column1-3 小改善の実力 ちりも積もれば	27
column1-4 改善の知恵を出す	28
1-2-6 何のために改善するのか	29
1-2-7 何を改善すればよいのか	29
1-2-8 どのように改善すればよいか—まず 1 歩踏み出すには—	31
<b>1-3 改善の必要性</b>	34
1-3-1 現場によくある問題	34
1-3-2 どこから改善するか?	36
1-3-3 誰が改善するのか	37
1-3-4 改善提案制度は何のためにあるのだろうか	38
学習のまとめ	40
<b>第 2 章 改善の基礎を固める</b>	41
<b>2-1 改善の基礎をつくる</b>	42
2-1-1 5S で改善の基礎づくり	42
column2-1 探し物は何ですか	46

2-1-2	見える化で改善	50
column2-2	事例「アンドン」(トヨタ生産方式)	52
2-1-3	改善は難しくない	54
column2-3	異業種から改善を学ぶ	57
<b>2-2</b>	<b>改善のすすめかた</b>	<b>60</b>
2-2-1	現場改善のしかた	60
column2-4	VA / VE	61
column2-5	ワークデザイン	62
2-2-2	職場の問題を改善する	63
column2-6	問題意識	67
column2-7	層別	73
column2-8	パレートの法則	81
	学習のまとめ	95
<b>第3章</b>	<b>改善力をつける</b>	<b>97</b>
<b>3-1</b>	<b>ムダ取り力をつける</b>	<b>98</b>
3-1-1	現場には必ずムダがある	98
3-1-2	ムダの見つけ方	99
column3-1	平準化	102
<b>3-2</b>	<b>IE 手法を学ぶ</b>	<b>111</b>
3-2-1	IE アプローチによる作業改善の進め方	111
3-2-2	現場で応用する	141
<b>3-3</b>	<b>改善力を鍛える</b>	<b>149</b>
3-3-1	問題発見力を鍛える	149
3-3-2	改善発想力を鍛える	152
column3-3	あなたの創造力を試してみよう	154
3-3-3	改善実践力を鍛える	159
3-3-4	全体最適の視点	163
<b>3-4</b>	<b>改善技術の歴史</b>	<b>164</b>
3-4-1	改善のはじまり	164
3-4-2	分業、標準化の進展	165

3-4-3	大量生産とIEの誕生	165
column3-4	テイラーの実験	166
	学習のまとめ	167
<b>第4章</b>	<b>改善の成果を出す</b>	<b>169</b>
4-1	改善を続ける	170
4-1-1	改善をレベルアップする	170
4-1-2	改善を楽しむ	174
4-1-3	改善の成果を出す	180
4-1-4	改善の成果と企業の体質	183
4-2	改善成果を定着させる	183
4-2-1	標準化と改善	183
4-2-2	作業標準書の運用と作成のポイント	186
4-3	改善案を日常化する	189
4-3-1	改善案の日常化の必要性	189
4-3-2	日常化の方法	190
4-4	改善提案活動の仕組み	193
4-4-1	現場の変化と改善提案制度	193
4-4-2	改善提案の必要性	196
4-4-3	改善提案制度に参加しやすくするには	198
4-4-4	小集団活動の活性化	206
	学習のまとめ	209
<b>第5章</b>	<b>改善の着眼力を磨く事例集</b>	<b>211</b>
5-1	事例集の使い方	212
5-2	動作経済の「基本原則」を着眼点にして考えてみよう	213
5-2-1	基本原則Ⅰ 動作の数を減らす	213
5-2-2	基本原則Ⅱ 動作を同時に行う	216
5-2-3	基本原則Ⅲ 動作の距離を短くする	217
5-2-4	基本原則Ⅳ 動作を楽にする	218
column5-1	持ち上げるものの重量限度（18歳以上の場合）	218

<b>5-3</b>	<b>ECRS を着眼点にして考えてみよう</b>	219
5-3-1	E : Eliminate / 排除, 省略 / なくせないか	219
5-3-2	C : Combine / 統合 / 一緒にできないか	220
5-3-3	R : Rearrange / 交換, 変更 / 順序, 場所, 人を変えられないか	221
5-3-4	S : Simplify / 簡素化, 単純化 / 単純化できないか	222
<b>5-4</b>	<b>見える化を着眼点にして考えてみよう</b>	222
5-4-1	探すムダと空振りのムダをなくす	222
5-4-2	聞き間違い, 勘違いをなくす	223
5-4-3	見える化して共有する	223
5-4-4	タイムリーに把握できるようにする	224
5-4-5	発注点の見える化①	224
5-4-6	発注点の見える化②	225
5-4-7	ルールの見える化	225
<b>5-5</b>	<b>安全面を着眼点にして考えてみよう</b>	226
5-5-1	注意喚起を確実にする	226
5-5-2	作業や設備が滑らないようにする	227
column5-2	KYT (危険予知トレーニング)	227
<b>5-6</b>	<b>その他 (ムダを着眼点に考えてみよう)</b>	228
5-6-1	場所をまとめる	228
5-6-2	一手間かけてムダをなくす	228
<b>5-7</b>	<b>身の回りのものを改善のヒントにして考えてみよう</b>	229
5-7-1	ガソリンスタンドをヒントに	229
5-7-2	ラップを活用	229
5-7-3	電池ケースをヒントに	230
5-7-4	給紙トレーをヒントに	230
5-7-5	ダルマ穴で工夫する	231
	学習のまとめ	231

索引 233

参考文献 235